

平成24年度第6回移動市長室会議録

(平成24年 9月28日)

1 日 時：平成24年 9月28日（金）、10時00分～11時00分

2 場 所：生涯学習センター1階会議室

3 出席者：

『筑紫野市青少年育成市民会議』

久原会長、近本顧問、中島会員、白山会員、跡部会員、浦山会員、滝会員、森田会員、
早原会員

『筑紫野市』

藤田市長、榑木教育部長、榑木秘書広報課長、萩尾戦略企画課長、
中村生涯学習課長、松隈秘書広報課主任、梅田青少年担当

4 内容：団体の現状と課題などについての懇談

○（事務局） 皆さんおはようございます。本日は大変お忙しい中、筑紫野市青少年育成市民会議の皆様には貴重な時間をいただいております。まことにありがとうございます。

ただいまから、平成24年度第6回移動市長室を始めさせていただきます。

移動市長室は、市内のいろいろな分野で活躍されてある各種団体、グループの方と懇談をおこないまして、意見や要望を今後の市政に生かしていくものでございます。今回で通算第14回目の開催となるところでございます。

本日の懇談は、お手元の次第のとおりに進めさせていただきます。市長挨拶、筑紫野市青少年育成市民会議会長挨拶、出席者の自己紹介、懇談の順でまいります。

懇談では、青少年育成市民会議の活動内容について御説明いただき、次に課題と今後の方向性についてお話をさせていただきたいと思っております。懇談の中でいろいろと質問をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

本日の懇談内容は、会議録を作成いたしまして市民に公表させていただきます。また、お撮りしました写真は、広報紙やホームページで公表させていただきますので、御了解をよろしくお願いいたします。有意義な懇談会となりますよう、よろしくお願い申し上げます。

では、藤田筑紫野市長が皆様にごあいさつを申し上げます。

○（藤田市長） 皆様、おはようございます。きょうは大変御繁忙の中、移動市長室に御参加いただきまして、まことにありがとうございます。久原会長をはじめ、皆様方から貴重な御意見を拝聴する機会をいただきましたことに、感謝を申し上げるところでございます。

特に、筑紫野市青少年育成市民会議の2代目会長を務めていただき、現在は筑紫野市の教育委員会の委員長をしていただいております近本明顧問にも御出席を賜わっておりますことに、大変感謝を申し上げるところでもございます。

筑紫野市青少年育成市民会議には多くの団体を統率していただき、筑紫野市の青少年育成に努めていただいております。筑紫野市青少年育成市民会議は34年の歴史を持っており、当時のそれぞれの会長たちが社会情勢や青少年の現状を踏まえながら、多くの団体の一つにまとめ、どのようにしたら青少年の健全育成につながる取り組みができるかを考え活動をされてきておりますので、大きな成果が出てきているだろうと思っております。

現状を見てみますと、学校現場や社会教育現場の中でのいじめや不登校、それに関連して自殺をすることがあります。次々とこのようなことが起こっていますが、あってはならないことです。

移動市長室は月に1回おこなっており、きょうで通算第14回目になります。「住みたい・住み続けたい」あるいは「子や孫に誇れるような」筑紫野市を目指すにあたって、いろいろな団体から御尽力を賜っていることを移動市長室の回数を重ねるたびに感じております。

きょうは、青少年育成市民会議の皆様方の貴重な意見を拝聴させていただき、市の行政や教育行政の中にその意見を取り入れたいと思っております。きょうの移動市長室が実のあるものになりますことをお願い申し上げまして、あいさつにかえさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

○（事務局） 続きまして久原会長、よろしくお願ひいたします。

○（久原会長） おはようございます。本日は大変お忙しい中、筑紫野市青少年育成市民会議との移動市長室を開催していただきまして、まことにありがとうございます。

また、市長には日頃から物心両面にわたりまして、たくさんの御支援をいただいていることに感謝しております。ありがとうございます。

私たちは筑紫野市青少年育成市民会議44団体と個人会員6名で、青少年の健全育成のために活動に取り組んでおります。具体的な活動内容につきましては後ほど説明をさせていただきますので、挨拶は簡単に終わらせていただきたいと思います。本日はまことにありがとうございます。

○（事務局） 続きまして、自己紹介をおこなわせていただきます。

まず行政側から自己紹介をさせていただきます。教育部長からお願ひいたします。

○（教育部長） おはようございます。いつもお世話になっております。教育部長を務めております榎木でございます。よろしくお願ひいたします。

○（事務局） 続きまして、本日の司会進行をさせていただきます秘書広報課の榎木と申します。よろしくお願ひいたします。

○（戦略企画課長） 戦略企画課長をしております萩尾です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○（事務局） 秘書広報課の松隈と申します。よろしくお願ひいたします。

○（青少年担当） 生涯学習課青少年担当の梅田といいます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○（事務局） 以上が、行政側の出席者でございます。

続きまして、青少年育成市民会議の皆様の自己紹介をお願ひいたします。お名前のほか

に自分の所属団体のPR等も一緒にしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

- （会員） おはようございます。監事の跡部と申します。筑紫野市体育協会や健康づくり運動サポーターに所属しております。市民の皆様方、特に高齢者の健康づくりや体力づくりに視点を置き、活動しております。そのほかにも、近本先生から長い間声をかけてもらい、レクリエーションスポーツにもかかわるようになりました。

ここでは青少年の育成にかかわらせてもらっておりますので、頑張っていきたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします。

- （会員） おはようございます。監事の浦山と申します。所属は筑紫野市針摺の区長をさせていただいております。

私はまだ慣れていないため、皆さんにいろいろ御指導いただいて勉強をさせていただいております。ただ、藤田市長にはいつも無理なお願いばかりしてしまっていて、申しわけございません。よろしくお願いいたします。

- （会員） 白山みさおと申します。よろしくお願いいたします。所属はPTAのあつまろ会というボランティア団体です。この市民会議にかかわらせていただいてから、7年か8年目ぐらいになります。

この難しい時代の子どもたちを、いかに地域でサポートできるかが大事だと思います。今は携帯やパソコンがあるため、何かが起こっても私たちにはわからない場合があります。そういうことを少しでも知りたいと思い、この会に参加させていただいております。微力ながらよろしくお願いいたします。

- （近本顧問） 顧問の近本です。市民会議では平成7年から会長をさせていただきました。その間にいろいろな人を市民会議に引っ張り込みました。市長、今後ともよろしくお願いいたします。

- （会員） おはようございます。副会長の中島妃佐子と申します。

私は、この青少年育成市民会議にかかわるようになって4年目になります。最初の2年間は山口地区の区長会から、監事として出ておりました。私が青少年育成市民会議にかかわる前は、子どもたちに関する問題が生じたときに相談・解決するところがありませんでした。しかし、区長を拝命し、青少年育成市民会議に出るようになり、近本先生や久原先生をはじめ、皆さんと知り合いになることができたため、自分の子どもの悩みなどを相談できるようになりました。それがとてもすばらしいと感じました。私にとっても、青少年

育成市民会議はとても大事なものです。今後もできるだけかかわりあっていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

○（久原会長） 今年で3年目になります会長の久原です。よろしくお願いいたします。

以前、市民フォーラムのコーディネーターをしていた時代があり、そういう縁がありましたので会長になりました。いろいろな面で市長には昔からお世話になっております。微力でございますけれども、よろしくお願いいたします。

○（会員） 事務局長の滝でございます。よろしくお願いいたします。

私は、青少年育成市民会議の活動に3年前から参加させていただいております。当時の会長である近本会長から御前湯で総会があるからちょっと出て来いと言われ、気がついたら事務局次長になっておりました。その後、二日市中学校のPTA会長などをさせていただきました。市長には市内の小中学校に対していろいろな配慮をいただき、感謝しております。

団体に入り、多くの方と知り合いになることで、「know how（ノウハウ）」よりも、「know who（ノウフー）」が大切だと感じております。今後ともよろしくお願いいたします。

○（会員） おはようございます。事務局次長の森田です。近本先生のお声かけでここに入らせていただき、もう10年以上になります。年齢を問わず、いろいろな方とお付き合いができたので、いろいろな情報を仕入れさせていただき、人の見方が変わってきました。そして、それは自分にとってすごくプラスなことだと思っております。

私自身、今は民生委員・児童委員の主任児童員と、学校評議員をさせていただいております。やはり、そこではいろいろな情報を持っておかないといけません、発言の場がなかなかありません。そのため青少年育成市民会議は、ありがたい場所だと思っております。今後ともお世話になりたいと思えます。

○（会員） おはようございます。早原と申します。私はPTAにいたとき、監事をさせていただいておりました。当時の私の出席率は悪かったのですが、青少年育成市民会議は素晴らしい団体だと思っております。先輩方の豊かな経験や知識を私たちが受け継ぎたいという思いで、こちらに参加させていただいております。今後ともよろしくお願いいたします。

○（生涯学習課長） おはようございます。生涯学習課長の中村と申します。この会の副会長をさせていただいております。頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○（事務局） どうもありがとうございました。

それでは、青少年育成市民会議会長から活動内容についてお話をいただきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

○（久原会長）　まず筑紫野市青少年育成市民会議の目的について、お話しをさせていただきます。

青少年を取り巻く社会環境の変化や、深刻化する青少年の問題に対しまして、青少年育成国民会議や福岡県青少年育成県民会議は「大人が変われば子どもも変わる」を提唱しております。私たちは、青少年アンビシャス運動、教育力向上福岡県民運動等と連携をしながら、青少年の健全な育成を図ることを目的に活動しております。

加盟団体につきましては、先ほども申し上げましたとおり44団体と6名の個人会員でございます。

活動内容につきましては、数点ございます。

第1に、事務局・役員会を毎月1回、幹事会を2カ月に1回、定期的に開催しております。事務局・役員会では、会議の企画や庶務等をおこなっております。幹事会では主に情報の交換や各機関・団体との交流をしております。

第2に、資質向上のために研修会をしております。昨年度は5月にNPO法人田川ふれあい義塾に訪問し、研修を重ねてまいりました。本年度は視察研修を増やし、幹事会を含めた研修会を冬に企画する予定でございます。

第3に、うちの大きな事業である「市民フォーラム」を実施しております。市内5校の中学生、4校の高校生による意見表明をしたうえで、フォーラムをおこなっております。昨年は東北の震災がありましたので、昨年の市民フォーラムのテーマは「「絆」～今考えること～」でした。今年、滋賀県大津市のいじめ問題等ございますので、また原点に戻りまして、いじめに関するテーマで11月17日土曜日に実施する予定で準備を進めております。

第4に、イエローハンドブックの作成と活用をしております。イエローハンドブックでは、各地区の危険箇所や青少年健全育成にかかわる機関・団体等の情報を集約しております。それぞれの団体の方が替わられたりするので、イエローハンドブックは加除式になっております。監事や各団体の方に配布して、活用していただいております。ただ、現在のイエローハンドブックの資料が少し古くなってきましたので、内容の見直し、差し替えの業務に取り組んでおります。

第5に、こども110番の家を増設しております。子どもの安全・安心の確保及び地域

の危機意識高揚のために、地域の方やPTAの皆さんに協力をしていただいて、このプレートを掲示していただいております。今では1,300余りの場所に掲示をしていただいております。ただ、いざ子どもたちが駆け込んだときに人がいないとなると、かえって危険な場合があります。そのため、日頃から商売をされているところ、人がいるところにプレートを掲示していただけるように頼んでおります。

第6に、各種団体の事業支援をしております。「市内5中学校吹奏楽部合同演奏会」や「市内5中学校野球大会」、「筑紫小学校区フットベースボール大会」、「ソムチャダンススクール」への援助等、青少年を育成する事業への支援をおこなっております。

以上が、活動内容でございます。

○（事務局） 34年間の活動の要点をまとめていただき、ありがとうございます。筑紫野市青少年育成市民会議の規約等を見させていただきました。市民会議は、地域・学校・家庭・行政を結ぶ市内で唯一の連携機関という認識なのですが、具体的な役割はどのようなのでしょうか。

○（久原会長） 市民の皆様への青少年問題への啓発が主な業務になっていると考えております。

市内の青少年育成にかかわる団体の交流が主な目的でして、何か起きたときお互いに連携ができる体制をつくるのが一番大事だと思っております。さまざまな団体が加盟しておりますので、それぞれの団体で解決できる問題や解決できない問題がございます。そのため、今は加盟団体が連携できる体制づくりを進めていっております。

○（事務局） ありがとうございます。

先ほど中島副会長の自己紹介の中に、市民会議にかかわる前は子どもに関する問題を相談するところがなかったが、市民会議に出るようになって相談ができるようになったというお話がありました。よろしければ、もう少し詳しくお聞かせいただけないでしょうか。

○（会員） うちの公民館はずっとあけており、子どもたちがよく遊びに来ています。そのため、子どもたちの問題はある程度わかっていました。しかし、自分の子どもが学校を卒業するとPTA等との関係が全て切れてしまうため、子を持つ親の悩みなどを相談する場所が全然ありませんでした。

子どもたちの問題をどうするべきか自分で考えていたときに、山口区の区長会から筑紫野市青少年育成市民会議の監事をやってみませんかと勧められ、監事をやることにしました。親の立場であったときとは違い、指導員の立場となるので対応が難しいところがあり、

久原先生をはじめ、近本先生たちと相談をしてアドバイスを受けながら活動をさせていただきました。

私の青少年育成市民会議についての知識は、広報紙に載っているものを見るだけだったため詳しく知りませんでした。実際に青少年育成市民会議にかかわることで、この市民会議の必要性を実感することができました。

以前、子どもたちの言葉遣いが悪かったため公民館で叱ったことがありました。そういうときに、自分の行動が正しかったのかどうかを市民会議の人に相談することができるので、とても助かっています。

教育委員会などは敷居が高く相談に行きづらいと思います。今後、筑紫野市青少年育成市民会議が子どもについて悩みを抱えている親が集まりやすい場所になってもらえるといいなと思っています。

- （事務局） ありがとうございます。筑紫野市青少年育成市民会議は昭和53年から34年間にわたって活動をされております。

今の青少年問題は昔の青少年問題と比べると変化していると思いますが、青少年問題についての分析はどのようにされているのか、また時代の変遷にあわせて、市民会議がされてきた工夫について、近本顧問からお話しをお聞かせいただきたいと思います。

- （近本顧問） 時代の流れといいますか、「いじめ」がクローズアップされました。そのため、フォーラム、啓発運動などで「いじめ」についてしばしば取り上げられています。そのほかの問題としては、携帯電話に関する問題や不登校の問題などがあります。教育力向上福岡県民運動がまとめて、掲示してあります。

今の子どもの課題として、自尊感情の低下、学ぶ意欲の低下、体力等の低下などがあります。そこに焦点を当てて学校教育や社会教育をやるならば、県民、市民としてどこに焦点を置けばいいのかははっきりします。

筑紫野市青少年育成市民会議の事務局員や会員がお互いに持っている力を出し合いながら運営をしております。お互いに無理をしないようにしつつ、情報が集まったときに会議で取り上げ、解決方法を話し合い、情報を共有してそれぞれのところで動いております。

以上です。

- （事務局） ありがとうございます。

現在、44団体が登録をされておりますが、団体数としては十分だと感じているのでしょうか。あるいは、まだ不十分であり、足りない団体があると感じているのでしょうか。

○（久原会長） 団体の方々には任意で筑紫野市青少年育成市民会議に加盟していただいております。それぞれの団体の会則に青少年の健全育成をうたっている団体には、ぜひ加盟していただきたいと思っております。

最近できた団体でも、活発に活動をされている団体がございます。例えば、健康づくり運動サポーターは高齢者の方が中心ですが、たくさんの会員がおり、活動をされております。高齢者と子どもたちの触れ合いは大切なので、子どもたちと触れ合う活動をしていただけると大変ありがたいと思っております。

○（事務局） 44団体の中で連携をとることは大変だと思います。どのような工夫をされてあるのでしょうか。

また、福岡県や他市町村との間での育成市民会議もあるのでしょうか。そういうところとの交流があれば、教えてください。

○（久原会長） 工夫していることは、2カ月に1回おこなっている幹事会において意見が出やすいように、昨年からはグループ討議を取り入れたことです。お互いがお互いのことをよく知ることで、困ったことがあったときにお互いに助け合える環境をつくっております。

ほかにも、団体の幹事が替わったときや、幹事会に出席できない人がいるときのために、青少年育成市民会議の会議録を必ず引き継いでもらうようにしており、次に何をしていくのかがわかるようにしております。

福岡県には福岡県青少年育成県民会議がございます。県民会議の活動の一つである「少年の主張福岡県大会」が大宰府市の中央公民館で開催され、中学生が自分たちの主張を発表しておりました。そういった活動に参加させていただくことで、県民会議の下部団体という形でかかわりを持っております。

筑紫地区全体のかかわりとなると、十分とはいえない部分がございます。そのため、もっとかかわりあえる体制ができるといいなと思っております。

○（事務局） ありがとうございます。

役員会は毎月、幹事会は2カ月に1回開催されており、幹事会ではグループ討議をしているとのことでした。役員会・幹事会では青少年の問題行動に関する情報などが毎回あがっているのでしょうか。

○（久原会長） 大体のテーマを決めてから話し合いをしており、グループ編成が毎回変わるようにすることで、いろいろな団体の人たちと話ができるようにしております。

例えば、「青少年の問題と私たちのかかわり」というテーマを設定したり、今の子ども

たちの状態について教育委員会の指導主事からお話をしてもらったりします。そして子どもたちの今の状況について知らなかったとか、いろいろな意見が出るので、それをグループの中で話し合っていていただくことで、ほかの団体と交流を深めていただいております。

○（事務局） 定期的に情報交換をしており、その情報を皆様のそれぞれの団体に持ち帰り、メンバーの方々に伝えることが次の作業になると思います。メンバーに情報を伝えることで、その情報は活かされているのでしょうか。主任児童委員の森田さん、いかがでございますでしょうか。

○（会員） 立場の違う方々のいろいろな情報ですから、新鮮さがあります。メンバーに情報を伝えたときに「ああ、そういうことがあってるんだ」などの意見をいただくので、情報は役立っていると思います。ただ、団体同士での連携が全然とれていないことはないのですが、さらに連携を強めていったほうが良いと思います。

○（事務局） 市民フォーラムがメインの行事という印象を受けております。今年も11月17日の土曜日に開催されるということでございます。

毎年秋の恒例行事になっていると思いますが、中学生、高校生の反応はいかがでしょうか。また、学校や市民の反応はいかがでしょうか。

○（久原会長） 子どもたちの発表ではいろいろな意見や提案を出してもらえるので、本当にためになる内容だと思います。

ただ、生徒会の子どもたちは数名参加してくれるんですが、子どもの参加者の人数が少ないことが残念です。保護者の方々についても、いろいろな行事と重なるなどの都合上、参加者が少なくなってきており、少し寂しいです。

市民フォーラムでの市民の方々と子どもの交流では、とても前向きな意見を出していただいております。子どもたちは市民の意見を受け、それを返すため、テーマについてさらに深く考えることができます。

学校との関係では、市民フォーラムの開催日が土日になりますので、校長先生は参加してくださいませ。しかし休日であるため、生徒会の担当の先生は参加していただきませが、ほかの先生たちの参加は少ないです。子どもが非常に良い意見を話してくれるので、ほかの先生たちにも参加していただけるとありがたいと思っております。

○（事務局） 毎年テーマを決め、いろいろな工夫をされて市民フォーラムを実施されております。市民フォーラムでは子どもから意見発表を聞き、ディスカッションをしておりますが、具体的な成果はございますでしょうか。

○（久原会長） 発表をした子どもを含め、成長すると思います。昨年発表してくれた高校生がいるんですが、その高校生は中学生のときにも1回発表をしてくれた生徒でした。高校生になっても市民フォーラムで意見表明をしてくれたので、子どもの成長を感じることができました。

ただ、市民フォーラムへの参加者が少なくなっていることが課題となっています。市民フォーラムで話を聞いていただけた方々は非常に感動して帰られます。ですので、市民フォーラムに来ていただいた方々には効果があります。しかし、現在は参加者が少なくなってしまうことが残念です。

○（事務局） ありがとうございます。

最後の質問にさせていただきたいと思います。平成9年から「こども110番の家」の増設に取り組んでいらっしゃいますが、取り組み始めた動機を教えてください。また、今の地域の反応や協力関係はどうでしょうか。滝事務局長いかがでしょうか。

○（会員） 「こども110番の家」は、各小学校の地区委員にさせていただいております。本当はその人たちが常に家にいるといいのですが、常にはいられないため、どうすればいいのか問題となっております。

私個人の考えになるんですが、子どもたちに実際にプレートを持って行ってもらうことで、子どもたちにとってその場所は全く知らない人の家ではなくなり、プレートを置く側の人にとってもどういう子どもがいるのか認識することができる、というような工夫をしていきたいと思っております。

ただ、プレートを1度配っても数年たつとぼろぼろになってしまいます。そのため、各小学校の地区委員さんの判断でプレートの再配布ができるようにしていきたいと思っております。

○（会員） 始めたときの動機は何なのかという質問がありましたが、1997年に春日市で起こった麻衣ちゃん事件が契機となっております。本市では筑紫東小学校、原田小学校、筑紫野南中学校の3校合同で注意喚起のポスターが張られました。それから、市内全域で活動しようとなり、ポスターを改善していったわけでございます。

今の教育委員会指導員の原口先生が筑紫東小学校にいたときに絵を描いて張っていました。それが最初になります。

○（事務局） ありがとうございます。その活動が現在も継続しているんですね。

それでは、続きまして筑紫野市青少年育成市民会議の課題と今後の方向性についてお話

をいただきたいと思います。お願いいたします。

○（久原会長） 青少年を取り巻く社会状況の変化の中で、複雑化、多様化した課題が多数あります。特に、いじめや不登校、虐待の問題などは深刻な状況にあります。

そういう状況のなかで、地域によっては地域活動に参加しない親、子どもが増えており、地域への帰属意識、連帯感が希薄になっております。また、大型店舗やコンビニの増加によって、子どもの遊び場が広域化したために非行問題が多くなってきております。

青少年育成市民会議では、このようになることを防ぐために啓発活動、支援、相談などに努めております。そのなかで3つの課題を大きく唱えて、取り組みを進めております。

一つは、市民フォーラムの参加者が少ないことです。市内の5校の中学生と4校の高校生が意見表明、討議をする貴重な機会であるのに、参加者が少ないのは、もったいないと思っております。そのため、今年は関係団体に働きかけをおこない、動員体制を組んでも盛り上げていきたいと考えております。市民フォーラムは、今まで日曜日に開催していましたが、幹事会で話し合い、参加者を増やすために土曜日の昼から開催しようとしております。

次に、青少年育成団体の連携・協働の促進です。以前は加盟団体間の行事や活動を報告してもらおう程度の交流でしたが、今は各団体が小グループで話し合うようにし、一方的な報告で済まさないようにしております。そうすることで、お互いに知らなかったことをたくさん知ることができるようになり、青少年の問題について具体的な対策を考えることができるようになったので、加盟団体間での連携を今以上にとれるようにしていきたいと思っております。

最後に、大型商業施設を中心とした青少年の広域的なつながりによる非行の拡大があり、大型店舗や警察との情報の共有が非常に大事になると思っております。しかし、筑紫野市青少年育成市民会議は市内の青少年関係機関・団体及び賛同者で組織されている団体であり、大型店舗等の参加がありません。しかし昨年、大型店舗等が加盟している筑紫野市青少年連絡会という組織ができましたので、その連絡会と交流を進めていきたいと思っております。

今後の方向性につきましては、活動内容の充実を図るだけでなく、各団体の連携を強め、市民会議の活性化を図っていかねばならないと常々考えております。

市民フォーラムにおいては、当面する課題への問題提起をおこない、多くの市民に「知る・考える・行動する」のきっかけづくりを進めたいと思っております。

また、幹事会においてグループ討議を取り入れ、各団体との効果的な連携を図るとともに、研修会を通じて市民会議の各幹事の誇りや使命感のさらなる高揚を図りたいと考えております。

さらに、青少年育成市民団体に加盟していない電話相談員や児童相談所など、いろいろございますので、積極的に関係づくり進めていきたいと思っております。

○（事務局） ありがとうございます。

市民フォーラムの参加者が少ないとおっしゃっていましたが、毎年どのくらいの参加者がいるのでしょうか。

○（久原会長） 生涯学習センターの「さんあいホール」が会場になるんですが、最初の頃は満員に近い状態でした。しかし、去年は空席が半分ぐらいになっておりました。

去年は市民フォーラムの行事以外にもいろいろな行事が重なったため、参加者が少なくなっていました。ですので、今年はずっと気合を入れていきたいと思っております。ポスターも手づくりして、PRしていきたいと思っております。

○（藤田市長） 一昨年、市民フォーラムに参加させていただいたんですが、参加者は多かったですね。

○（会員） 去年は109名で、一昨年は150名でした。

○（会員） 中学生も高校生も本当にいい話をするのに、もったいないです。

○（会員） 初めは会場が満員になるぐらいでしたから、250名ぐらいの参加者がいました。

○（会員） 11月の日曜日の午前中は中学生のクラブなどで新人戦が始まっていますし、重なってしまうんです。だから今年は土曜日の午後開催を考えています。

○（会員） 日曜日の午前中は、いろいろなイベントが増えてきていますから、今度はそういうことも考慮して開催しようとしています。

○（会員） 動員というのは、あまりよくないんでしょうけれど、去年の市民フォーラムでは幹事の参加も少なかったのも、もっと幹事の方々にも参加してもらいたいと思っております。

○（事務局） 筑紫野市青少年育成市民会議に加盟していない警察や大型店舗などにも加盟していただいて、連携をとっていくことが課題とのことでした。

その点につきまして、行政側の考えを中村課長から言っていただきたいと思います。

○（生涯学習課長） 警察に関係してくる問題など、緊急を要するものにつきましては、青

少年連絡会と連携をとり、早急に対応できるようにしていきたいと考えております。

○（会員） 何か相談があったときに誰に頼めばいいのかなど、連絡先が分かるようなマニュアルがあれば問題解決が早くなると思います。特に児童相談員に対して相談がきているようなので、うまく連携がとれるといいなと思っております。

○（事務局） そろそろお約束の時間となりますので、最後に言っておきたいことはございませんでしょうか。

○（近本顧問） 大人は子供を指導する、育てる、と考える一方で、子どもから学ぶと考えられるとおもしろいと思います。

○（事務局） 含蓄のある言葉をいただきました。ありがとうございます。

お約束の時間となりました。最後に、藤田市長からお礼を兼ねましてお話があります。

○（藤田市長） 1時間という限られた時間でしたが、榎木課長が質問を投げかけ、皆様から回答をいただく形で有意義な意見交換会ができました。

榎木課長が質問し、皆様の回答を教育委員会で受けとめ、戦略企画課が企画を立て、各部におろしていきます。筑紫野市の頭脳である戦略企画課の課長がきょう来ておりますので、皆様から拝聴した意見を市政に生かしていくと思います。

筑紫野市青少年育成市民会議には44団体、個人が6名加盟していきまして、中を見ますと、小地区公民館連絡協議会や小中学校校長会、商工会、体育協会、保護司会等の団体が加盟しています。PTAに関しては、全校加盟しています。筑紫野市を網羅しており、非常にすばらしい団体であると認識いたしました。

先日、小川知事が筑紫野市を訪問されたときに、湯町の団体など、それぞれの団体を回りました。健康づくり運動サポーターのところに小川知事が来たときに、知事も巻き込んで生き生きとした健康体操をしました。高齢の方もいらっしゃいますけれど、近本先生のように経験豊富な方がたくさんいらっしゃいます。もちろん、今回出席されている皆様もそれぞれすばらしい発言をされていました。

最初に武石太兵衛さんがつくり、近本先生が15年、そして今は久原会長が引き継いでいます。まだ悩みもあると思いますが、歴史を続けていくことによって、すばらしい青少年が育成されるだろうと思っております。

「大人が変われば子どもも変わる」を主要な柱に据えて活動している団体なんてありません。子どもを育成するのに大人が変われということですから、これは非常に大きなテーマだと思います。

筑紫野市青少年育成市民会議はすばらしい団体だということを感じました。このことを申し添えて、感謝する言葉にかえたいと思います。本当にどうもありがとうございました。

○（事務局）　ありがとうございました。

定刻の時間となりました。これをもちまして、本日の移動市長室を終了させていただきます。本日は青少年育成市民会議の皆様、大変ありがとうございました。